

## (1) 事業の目的

高規格道路へ接続するアクセス道路の整備、駅前広場整備に合わせた駅アクセス道路の整備により都市内交通の円滑化を確保し、都市機能の強化を図る。

## (2) 指標①：中心都市等への30分行動圏人口カバー率

[高規格幹線IC及び地域中心都市へ30分以内に到達できる地域に居住する人口/県人口]

## 指標②：用途地域内における都市計画道路の改良率

[用途地域内における整備済みの幹線街路延長 / 用途地域内における都市計画決定された幹線街路延長]

### 指標の達成状況

①最終実績値は93.9%であり、目標値（93.9%）を達成した。

②最終実績値は、64.9%であり、目標値（66.0%）を達成できなかったが、一部の事業箇所では計画期間内で街路整備（現道拡幅）が完了するなど、確実に都市計画道路（幹線道路）の改良率は向上している。

計画の成果目標	定量的指標			
	H27当初	H31末最終目標	最終実績	達成率
中心都市等への30分行動圏人口カバー率 ※1	93.8%	93.9%	※H31.3月末時点 93.9% (3,536,475/3,765,007)	100%
用途地域内における都市計画道路の改良率	61.6%	66.0%	※R2.3月末時点 64.9% (965.3km / 1487.3km)	74.4%

※1 県人口（分母、単位：人）は、目標設定時の条件と合わせるため、H22国勢調査人口を用いて算出

## (3) 指標に関連する実施事例



幹線道路の整備により河川で分断された地区が接続しアクセス能力が向上

## (4) 定量指標以外の効果発現状況

都市計画道路（幹線街路）の整備により、地域間交流の活性化と交通円滑化による産業活動の支援とともに、生活道路に流入していた通過交通を転換させ、安全で快適な都市生活環境の確保が図られている。

## (5) 今後の方針と目標達成見込み

引き続き、関係市町と連携し、アクセス道路の整備を進め都市内交通の円滑化を確保するとともに、快適に中心都市を移動できる道路ネットワークを構築していく。

残る事業箇所についても、新たな整備計画にて事業を継続し、早期完了を目指す。